

自己評価・外部評価 評価表

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>I 構造評価(Structure) [適切な事業運営]</b>									
<b>(1) 理念の明確化</b>									
①	サービスの特徴を踏 まえた理念の明確化	1	当該サービスの特徴である「利用者 等の在宅生活の継続」と「心身の機 能の維持回復」を実現するため、事 業所独自の理念を掲げている	7	3			<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所独自の理念がある。</li> <li>・掲示してあり確認できる。</li> <li>・年間事業計画がある。</li> <li>・ご利用者ご家族に寄り添ったケアの 実現のためわかりやすい言葉で掲げ ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回推進会議資料にも事業所理 念がわかりやすい言葉で記載されて おり良かったと思う。</li> <li>・理念は明確化されている。</li> <li>・特徴に基づいた理念を掲示してい る。</li> <li>・外部の人も確認できる所に掲示が あると良い。</li> </ul>
<b>(2) 適正な人材の育成</b>									
①	専門技術の向上のた めの取り組み	2	管理者と職員は、当該サービスの 特徴および事業所の理念につい て、その内容を十分に認識している	8	2			<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の理念と、年間事業計画目 標について職員に周知確認してい る。</li> <li>・ミーティングや研修等でサービスに ついて学習している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念を理解し頑張っている。</li> <li>・事業所の特徴・理解について職員 間で周知認識できている。</li> <li>・スキル向上されている。・職員全員 で内容理解を深めると良い。</li> </ul>
		3	運営者は、専門技術(アセスメント、 随時対応時のオペレーターの判断 能力など)の向上のため、職員を育 成するための具体的な仕組みの構 築や、法人内外の研修を受ける機 会等を確保している	2	8			<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時オペレーター対応について評 価している。</li> <li>・ヘルパー研修やセンター研修を毎 月実施し専門的知識や技術の向上 を図っている。</li> <li>・参加できない職員は資料と研修記 録から共有できる。またいつでも資料 を確認できる。</li> <li>・ヘルパー事業所間の同行研修を実 施した。</li> <li>・外部研修はコロナの影響からリモ ート研修に参加していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間研修計画を予定通り実施でき ているか？多方面の内容もあり続け てほしい。</li> <li>・研修を通じ技術向上を図っている。</li> <li>・研修不参加職員全てが記録や資料 を通して共有できている。</li> <li>・事業所間の交流研修は効果的でよ い。今後はリモート研修が主流となる 積極的に活用できると良い。</li> <li>・参加率を上げるにはリモート研修は 有効である。</li> <li>・オペレーターの評価は、どのように 評価しているか？基準などあるの か？</li> </ul>

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
I 構造評価(Structure) [適切な事業運営]									
(2) 適正な人材の育成									
①	専門技術の向上のための取り組み	4	管理者は、サービス提供時の職員の配置等を検討する際、職員の能力が最大限に発揮され、能力開発が促されるよう配慮している	5	5			<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の向上心を引き出すように考慮している。</li> <li>各利用者を職員が担当することで責任を持ってサービス提供を考える能力開発につながっている。</li> <li>毎月ミーティングで利用者状況の共有を図り職員みんなで統一対応できるようにし意見交換し技術向上を目指すよう配慮している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのように職員の向上心を引き出しているのか具体的にしたい。</li> <li>利用者の状況を共有し統一した対応ができるよう配慮されている。</li> <li>サービス共有のためミーティングは必要。</li> </ul>
②	介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保	5	介護職・看護職の間で、利用者等の特性・状況に係る相互の理解・認識の共有のための機会が、十分に確保されている	6	4			<ul style="list-style-type: none"> <li>フェニックスネットを活用して情報共有をしている。</li> <li>研修などで職性についての学ぶ機会を持っている。</li> <li>医療的なことは看護職との連携を図り指示助言を仰ぎ対応している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>よりよいサービス提供ができるよう情報共有ツールを活用して多職種間の相互理解を深めてほしい。</li> <li>フェニックスネットを適切に活用している。</li> <li>情報共有し対応統一することは利用者にとって安心できる。</li> <li>看護師へどんどん聞いてもらいたい。</li> </ul>
*									
①	組織マネジメントの取り組み	6	利用者等の特性に応じた柔軟なサービスを提供するため、最適且つ柔軟な人材配置(業務・シフトの工夫)を行っている	8	2			<ul style="list-style-type: none"> <li>24時間交代勤務を活かし職員全員でご利用者の特性を理解して共有し統一した援助を行うようにしている。</li> <li>利用者家族の要望により柔軟な勤務調整と人材配置をしている。</li> <li>追加訪問や随時訪問など柔軟に対応している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の要望や個々の訪問タイミングの違いもあると思うが引き続き柔軟な対応を続けてほしい。</li> <li>利用者状況・職員体制に応じてマネジメントが出来ていると思います。</li> </ul>
②	介護・医療連携推進会議で得られた意見等の適切な反映	7	介護・医療連携推進会議を適時適切に開催すると共に、得られた要望、助言等(サービスの過少供給に対する指摘、改善策の提案等)を、サービスの提供等に適切に反映させている	5	5			<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ感染症防止のため推進会議は文書照会にて行っている。</li> <li>前年度のご意見ご指摘内容助言を頂き、改善に向けて努力している。</li> <li>推進会議の内容や反映について理解に欠けている部分がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理解に欠けている部分は出来ていないということでしょうか。</li> <li>文書での会議であったが添付資料は事例を基に分かりやすいと感じました。</li> <li>当事者でないかと伝わりにくい部分もあるので会議内容の伝え方に工夫が必要。</li> </ul>

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>I 構造評価(Structure) [適切な事業運営]</b>									
<b>(4) 適切な情報提供・共有のための基盤整備</b>									
①	利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備	8	利用者等の状況について、(個人情報管理に配慮した上で)必要に応じて関係者間で迅速に共有できるよう工夫されている	6	4			フェニックスネットを活用して多職種間で情報共有ができています。また緊急な内容は電話連絡している。 ・連携出来ていない事業所は電話等で連絡している。	・フェニックスネットを活用していない事業所との情報共有で不足する事はないですか。 ・フェニックスネット、電話等状況に応じて出来るように工夫している。 ・フェニックスネットで情報を得た際には確認ボタンを押す習慣をつけるとよい。
<b>(5) 安全管理の徹底</b>									
①	職員の安全管理	9	サービス提供に係る職員の安全確保や災害時の緊急体制の構築等のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている(交通安全、夜間訪問時の防犯対策、災害時対応等)	6	4			・交通安全研修を行っている。安全な駐車場所確保など検討要することもある。 緊急連絡網で災害時の体制がある。 ・ココセコムを夜間訪問時に持参し防犯対策している。 ・コロナ感染症防止対応を行っている。 ・災害時対応のマニュアルがある。 ・災害訓練をサポートセンターで定期的実施している。	・職員の安全を十分に確保して活動して欲しい。 ・コロナ感染予防対策マニュアルを作成して実践されている。 ・コロナ対策を徹底しながらのサービス提供は大変だが、決まりの則り適切に対応されている。 ・いざという時に利用者様や事業所職員の安全確保ができるよう取り組んでほしい。
②	利用者等の個人情報の保護	10	事業所において、利用者等に係る個人情報の適切な取り扱いと保護についての具体的な工夫が講じられているとともに、管理者や職員において共有されている	6	4			・個人情報保護のため保管場所は施錠管理・タブレットのロック機能・暗証番号管理をして、職員で共有している。 ・定期的に確認している。 個人 個人情報保護に関する研修を行っている。	・個人情報は十分配慮している。 ・個人情報保護の意識が薄れないように研修会や定期的な確認以上に日々の声掛けや確認がると良いと思います。 ・継続してほしい。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>II 過程評価(Process)</b>									
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>									
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>									
①	利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からのアセスメントの実施	11	利用者等の一日の生活リズムに着目した、アセスメントが提案されている	5	5			<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の生活リズムの把握に努めている。</li> <li>・生活リズムに合わせたADLにも着目している。</li> <li>・気付いたことをタブレットのコメントに提案し意見を出し合い必要な支援を調整している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズムに合わせたアセスメントや気付きから次の支援につながる点はとても良い。</li> <li>・タブレット有効活用が出来ている。</li> <li>・24時間の生活リズムに着目した適切なアセスメントが出来ている。</li> <li>・アセスメント記録を残す工夫をしてほしい。</li> </ul>
		12	介護・看護の両面からのアセスメントが適切に実施され、両者の共有、つき合わせ等が行われている	5	5			<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェニックスネットを活用し介護・看護の両面からアセスメントとモニタリングを実施しており共有している。</li> <li>・タブレットで情報共有と意見交換している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出来ている。</li> <li>・適切にタブレットやフェニックスネットを活用して情報共有や意見交換がなされていると思います。</li> </ul>
②	利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	13	利用者の心身機能の維持回復に軸足を置いた計画の作成が志向されている	6	4			<ul style="list-style-type: none"> <li>・機能維持・向上ができるよう自立支援を目的に計画作成している。</li> <li>・利用者個々に合わせた計画作成をしている。</li> <li>・日常生活リズムに着目して機能維持向上に繋がるようアセスメントし計画している。</li> <li>・機能維持を活かせるための住宅環境整備も視野に入れて多職種と連携してきている。</li> <li>・回復改善の見込みがあるアセスメントや計画も必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立・向上という計画を作るのは大変だと思う。良い事例(目標)はありますか？</li> <li>・自分らしく暮らすために自立支援を第一に計画作成していることはとても重要なこと。</li> <li>・多職種との連携についてどんな所と連携しているのか知りたい。医療面だけでなく口腔、栄養、リハ等の視点があると良い。</li> </ul>

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>II 過程評価(Process)</b>									
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>									
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>									
②	利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	14	重度化しても医療依存度を高め過ぎないよう、利用者の今後の変化を予測し、先を見越した適切なリスク管理を実現するための、「未来志向型」の計画の作成が志向されている	6	4			<ul style="list-style-type: none"> <li>・病状変化や日常生活の変化など今後の予測できるリスクを見越し早期に対応できるよう関係機関と連携して計画している。</li> <li>・病気進行に伴うメンタルケアも意識して対応している。</li> <li>・ご利用者ご家族の医療依存が強いと計画実現が難しいことがある。</li> <li>・実際には悪化重度化により入院されることが多く在宅復帰が困難なケースが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の悪化重度化するケースは「未来志向型」の計画を立てても重度化してしまうのでしょうか？</li> <li>・利用者の状況変化に合わせてその都度計画変更されている。</li> <li>・医療依存度が高くなり在宅で支えきれないこともあると思う。</li> <li>・関係機関と連携し適切な計画作成に努めてほしい。</li> <li>・困難事例等の振り返りは行っているか？</li> </ul>
<b>(2) 利用者等の状況変化への柔軟な対応と計画の見直し</b>									
①	計画上のサービス提供日時に限定されない、必要に応じた柔軟な定期巡回・随時対応サービスの提供	15	計画上のサービス提供日時以外であっても、利用者等の状況に変化が生じた場合は、必要に応じて新たに定期巡回・随時対応サービスの提供日時を設定するなど、柔軟な運営に努めている	7	3			<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況に応じて定期訪問以外に随時訪問している。また状況変化に応じて定期訪問時間やサービス内容を見直し設定するなど柔軟に対応している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況に応じて突発的な訪問が必要なものもあると思う。柔軟な対応を続けてほしい。</li> <li>・定期随時の強みが活かされていると思います。</li> </ul>
②	継続したモニタリングを通じた利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映	16	サービス提供を通じた、継続的なモニタリングによる、利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映が行われている	5	5			<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月のモニタリング実施と、サ責ミーティング等で、状況変化を把握し状況によりケアマネへ計画の見直しを提案している。</li> <li>・状態変化が生じた際にはフェニックスネットを活用し早期に反映できるよう働きかけている。</li> <li>・ケアプラン計画の反映には時間がかかることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状態変化があったらすぐに対応していかないと重度化してしまう恐れがあるので早めに対応を心掛けて下さい。</li> <li>・ケアプラン作成にはケアマネとの連携が大きいと努力されていると思います。</li> <li>・モニタリングも行われ計画に反映されている。なぜケアプラン反映に時間がかかるのか？</li> </ul>

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>II 過程評価(Process)</b>									
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>									
<b>(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>									
①	介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供	17	より効率的・効果的なサービス提供を実現するため、介護職、看護職のそれぞれの専門性を生かした役割分担が行われている	10				<ul style="list-style-type: none"> <li>計画時から専門性を活かした役割分担を行っている。常に連携を図りチームケアが出来ている。</li> <li>支援の中で必要に応じて看護の専門的な指示や指導助言を仰ぎ対応している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多職種連携が取れていると利用者様職員ともやりやすいので引き続き連携を図りチームケアをしてほしい。</li> <li>皆が出来ていることは素晴らしい。</li> <li>専門性を生かした連携支援が出来ている。</li> <li>互いの独自性を活かしてほしい。</li> </ul>
②	看護職によるサービス提供に関する指導、助言	18	看護職から介護職に対し、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、指導、助言が行われている	8	2			<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な利用者に対して介護職から看護職へ指導助言を求めている。</li> <li>フェニックスネットを活用して状態観察の共有ができ早期に助言が得やすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き多職種連携を続けてほしい。</li> <li>看護職と連携をし指導助言を受けている。</li> <li>フェニックスネットを活用し情報共有でき統一できて良い。</li> <li>介護職から積極的に気付いた点の質問をしていけるとよい。</li> </ul>
<b>(4) 利用者等との情報及び意識の共有</b>									
①	利用者等に対する当該サービスの趣旨及び特徴等についての十分な情報提供	19	サービスの開始前に、利用者等に本サービスが「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するためのサービスであり、訪問サービスは、その趣旨に沿って行われるアセスメントに基づき提供されることについて、十分な情報提供・説明が行われている	8	2			<ul style="list-style-type: none"> <li>契約前の事前訪問や担当者会議時に資料とともにサービスの趣旨や説明を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トラブルを避けるためにも丁寧な情報提供、説明を引き続きお願いする。</li> <li>利用者家族は一度で理解できない場合があるのでその都度説明が出来ていると思います。</li> <li>利用者が理解しているか見極めはどのようにしているか？</li> </ul>

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>II 過程評価(Process)</b>									
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>									
<b>(4) 利用者等との情報及び意識の共有</b>									
②	利用者等との目標及び計画の共有と、適時適切な情報の提供	20	作成した計画の目標及びその内容について、利用者等に十分な説明を行うなど、共通の認識を得るための努力がされている	7	3			<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人家族へ計画書の内容を説明しご理解納得いただいた上で署名捺印を頂いている。</li> <li>・いつでも必要時には目標と内容を再度説明し理解を得られるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご本人ご家族へ丁寧な説明をお願いする。</li> <li>・利用者家族は目標に向けて自分が行う事を理解するのが難しい事が多くある。何度も説明し対応をお願いする。</li> <li>・タブレットで他職種も共有できる。</li> </ul>
		21	利用者の状況の変化や、それに伴うサービス提供の変化等について、家族等への適時・適切な報告・相談等が行われている	6	4			<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況変化や伴うサービス提供に関することは適宜適切にケアマネへ連絡相談した上で家族へ相談報告している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス提供の変更がある場合はご本人ご家族へ丁寧な説明をお願いする。</li> </ul>
<b>2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント</b>									
<b>(1) 共同ケアマネジメントの実践</b>									
①	利用者等の状況の変化についての、ケアマネジャーとの適切な情報共有及びケアプランへの積極的な提案	22	ケアマネジャーとの間で、利用者へのサービス提供状況、心身の機能の変化、周辺環境の変化等に係る情報が共有され、サービスの提供日時等が共同で決められている	7	3			<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェニックスネットの活用また電話連絡でケアマネと情報共有し、サービス提供等を相談し共同で決めている。</li> <li>・利用者の生活維持や向上のため共同で話し合い決めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他事業所と情報共有を図りながらサービス提供できる環境が構築されていることはとても良い。</li> <li>・フェニックスネット、電話等活用出来ている。</li> </ul>
		23	計画の目標達成のために、必要に応じて、ケアプランへの積極的な提案(地域内のフォーマル・インフォーマルサービスの活用等を含む)が行われている	6	4			<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活維持と向上、より良い環境整備のため、インフォーマルサービスや近隣の支援なども含めサービスを提案している。</li> <li>・孤立しないよう地域や近隣の関わり等ケアマネと情報共有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフォーマルサービスを提案活用したり、近隣との関わりも積極的に行っている。</li> <li>・皆さんで積極的に方法を提案し利用者の自立へ働きかけ実際に援助方法を変更してADL向上に繋がっている。</li> <li>・地域とのつながりを途切れることなくサービスを受けられる環境は住み慣れた環境で自立を継続するため重要、引き続き関係機関と連携し対応してください。</li> </ul>

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>II 過程評価(Process)</b>									
<b>2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント</b>									
<b>(1) 共同ケアマネジメントの実践</b>									
②	定期的なアセスメント結果や目標の達成状況等に関する、多職種への積極的な情報提供	24	サービス担当者会議等の場を通じて、利用者等の状況や計画目標の達成状況について、多職種への情報提供が行われている	7	3			<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者会議に参加して情報提供している。</li> <li>・フェニックスネットを活用し毎月モニタリングで目標達成状況について多職種へ情報提供をしている。</li> <li>・フェニックスネット連携していない事業所ではモニタリング用紙を送付している。</li> <li>・目標を見直す必要があるときには状況報告をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種が連携してスムーズにケアを行えるように情報共有することはとても有効なこと。</li> </ul>
<b>(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献</b>									
①	利用者の在宅生活の継続に必要となる、利用者等に対する包括的なサポートについての、多職種による検討	25	利用者の在宅生活の継続に必要なとなる、包括的なサポート(保険外サービス、インフォーマルケア等の活用を含む)について、必要に応じて多職種による検討が行われている(※任意評価項目)	5	5			<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の在宅生活継続に必要なと思われるサービスを提案しケアマネを通して多職種で検討している。(配食サービス、ごみ収集サービス、等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当ケアマネと共に適切に検討されていると思います。</li> </ul>
		26	病院・施設への入院・入所、及び病院・施設からの退院・退所の際などに、切れ目のない介護・看護サービスを提供するために、必要に応じて多職種による検討や情報の共有が行われている(※任意評価項目)	5	5			<ul style="list-style-type: none"> <li>・特養入所時に個々の在宅生活環境など情報提供することがある。</li> <li>・退院退所時には事前に情報を受け担当者会議が行われ多職種で在宅生活がスムーズに行えるよう検討している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅から入退院等で環境が変わる際に切れ目のないサービス提供ができることはとても重要。今後も関係機関と連携しスムーズなケアに取り組んでほしい。</li> <li>・入退院時の連携はコロナ禍で大変かと思うが、文書等適切に行っていると思う。</li> </ul>



タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>II 過程評価(Process)</b>									
<b>2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント</b>									
<b>(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献</b>									
②	多職種による効果的な役割分担及び連携に係る検討と、必要に応じた関係者等への積極的な提案	27	地域における利用者の在宅生活の継続に必要となる、包括的なサポート体制を構築するため、多職種による効果的な役割分担や連携方策等について検討し、共有がされている <u>(※任意評価項目)</u>	3	7			<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅生活を支えるサービスのチームとして多職種の専門性を活かした役割分担や連携をケアマネジャーが中心にできている。</li> <li>推進会議にて多職種から意見等頂いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケアマネジャーを中心に適切に出来ていると思います。どんな所と連携しているか知りたい。</li> </ul>
<b>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</b>									
<b>(1) 地域への積極的な情報発信及び提案</b>									
①	介護・医療連携推進会議の記録や、サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信	28	介護・医療連携推進会議の記録について、誰でも見ることのできるような方法での情報発信が、迅速に行われている	5	5			<ul style="list-style-type: none"> <li>意見要望等まとめて会議記録を作成し発信している。</li> <li>事業所内でいつでも確認できる。</li> <li>推進会議についての理解が乏しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>推進会議の理解が乏しいのはどのような人を指すのか、具体的にどのような点なのか？</li> <li>会議議事録から理解することが出来る。</li> <li>情報提示してあっても内容が十分伝わっているとは限らないため周知方法に工夫が必要。</li> </ul>
		29	当該サービスの概要や効果等についての、地域における正しい理解を広めるため、積極的な広報周知が行われている	5	5			<ul style="list-style-type: none"> <li>地域へ向けて定期広報誌「美沢だより」を作成し広報周知している。</li> <li>また地域参加「まちのね」を通じて情報提供もしている。</li> <li>さらに地域への理解周知に努力が必要と思う。</li> <li>担当職員が取り組んでおり、以外の職員の意識が欠ける部分がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域交流が難しいなか定期的な広報等はとても大事な役割を担っていると思う。今後もさらなる地域への理解と周知につながるよう取り組んでほしい。</li> <li>地域住民から「美沢だより」を楽しみにしていると声がある。「まちのね」実施等と努力している。</li> <li>サービス利用につながっている。</li> <li>広報誌があり理解を得られて読みやすくて良い。</li> <li>地域への広報の反応など取り組みへの評価機構があると良い。</li> <li>コロナ禍で地域への理解周知は大きな課題である。</li> <li>職員全員が同じ認識で取り組むと良い。</li> </ul>

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>II 過程評価(Process)</b>									
<b>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</b>									
<b>(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画</b>									
①	行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解	30	行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について十分に理解している	1	9			<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めのヘルパー研修にて説明あり周知された。</li> <li>・管理者やサ責からも説明を受けているが勉強不足から不十分な部分もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアについての理解が一般職員には難しい。</li> <li>・市や他機関の情報を常に把握するよう努力が必要かと思います。</li> </ul>
②	サービス提供における、地域への展開	31	サービスの提供エリアについて、特定の建物等に限定せず、地域へ広く展開していくことが志向されている	5	5			<ul style="list-style-type: none"> <li>・エリア以外の介護保険機関(居宅、包括、病院等)へも情報発信している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的にされていると思います。</li> </ul>
③	安心して暮らせるまちづくりに向けた、積極的な課題提起、改善策の提案等	32	当該サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、介護・看護の観点から、まちづくりに係る問題認識を広い関係者間で共有し、必要に応じて具体的な課題提起、改善策の提案等(保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等)が行われている <b>(※任意評価項目)</b>	1	9			<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進会議において意見交換を行う。</li> <li>・多職種での研修に参加し意見交換の機会をもっていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍が落ち着き多職種で意見交換の機会が出来ると思います。</li> <li>・利用者の生活全体を支援し利用者が一番近いポジションだと思います。地域の課題を探る視点を持ち支援して行けると良い。</li> <li>・多職種の研修参加は大事なことです。</li> </ul>

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>Ⅲ 結果評価(Outcome)</b>									
①	サービス導入後の利用者の変化	33	サービスの導入により、利用者ごとの計画目標の達成が図られている	6	4			<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の自立支援の観点から計画し目標達成に向けて援助している。</li> <li>・ADL向上に合わせて目標設定や訪問回数など計画の見直しをしている。</li> <li>・現状維持のため目標継続されることもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の目標に沿って頑張ってもらえる。</li> <li>・モニタリングで目標達成状況を把握されている。</li> <li>・目標設定に本人の意向等もあるのか？</li> <li>・自立した生活が継続できるよう計画目標や支援の検討など適切なサービス提供に取り組んでほしい。</li> </ul>
②	在宅生活の継続に対する安心感	34	サービスの導入により、利用者等において、在宅生活の継続に対する安心感が得られている	6	4			<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ電話の設置によりいつでも呼べる安心感があるとお話を頂いた。</li> <li>・サービス利用して良かったと言われることが多くある。</li> <li>・アンケートを通じてご意見を聞くようにしている。</li> <li>・安心が得られるよう多職種連携して援助している。</li> <li>・住み慣れた自宅で看取りまで支えられるように多職種連携して取り組んでいる。</li> <li>・ご利用者ご家族の不安等の相談を聞き関係機関と検討し安心できる支援をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者皆安心して利用されていると思います。</li> <li>・ご利用者が在宅生活できるようにこれからも頑張ってください。</li> <li>・テレビ電話は安心でき助かる。</li> <li>・ご利用者にとって顔の見える関係が一番安心できると思う。引き続き関係機関と連携を図りサービス提供に当たってほしい。</li> </ul>